

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 伊豆高原分校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	46人				

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（プロジェクター型）
使用学年及び人数	高等部1年18人
使用頻度	毎日1授業以上(数学、職業教育、生活単元学習はほぼ毎回)
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ○数学:教材の提示、個々の生徒の回答提示、課題に対する説明提示、生徒同士が作成した問題の提示 ○職業:職業教育に関する事業所等のホームページ、上級生・卒業生の就労の様子動画提示、学年作業の説明動画提示、パワーポイントによる説明 ○生活単元学習:学年・学校行事に向けた事前指導パワーポイント、校外学習日程説明提示 ○美術:鑑賞の画像や課題とする技法の提示、ポイントの説明
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ○4年度末に他の教室に設置されたことから、教員に向けて5年度は「触ってみよう」、6年度は「使ってみよう」と担当より声をかけた。これまで小型(移動式)プロジェクター、モニターの準備、接続に関わっていた時間の大幅な低減、大型モニター転倒の危険性もなくなり、使いやすくなったことを実感したことにより使う頻度が大幅に増加した。 ○ホワイトボード一杯の大きさに提示されることで見やすく、生徒も画面に集中している様子がうかがえる。 ○動画を途中で止めたり、細部を拡大したり、タッチペンを使用したりすることで注意点や課題をわかりやすく生徒に伝えることができた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が集中して画面を見たり、課題の提示がわかりやすくなったことが確認できたので、今後も積極的に活用したい。 ○教員がいろいろな機能をさらに研修して効果を増大させたい。 ○生徒の方が操作はすぐ覚えるだろうと予想されるので、今年度は、教員中心に使用していたが、生徒が操作をしながら授業を進める機会がほとんど なかったので、今後はこの点についても推進していきたい。
その他希望や所感など	<p><生徒より></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大きくて見やすい、わかりやすい <p><教員より></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報機器の扱いが苦手でも気軽に使うことができ、今後も使っていきたい。 ○細かい部分が拡大されるので、説明しやすく、一斉に説明ができて便利。 ○Apple TVと接続することで、より自由に生徒の様子や回答の様子をリアルタイムに共有できた。

2. 活用の様子



①職業教育

先輩の実習の様子から、これからの自分の課題について意見を出し合う授業。これらをタッチペンでまとめたり、教員が特に課題となることをまとめたりなどをタッチペン、消しゴム機能を用いて進めている。



②数学

課題を提示し、生徒はiPadを用いて解答し、互いの意見を映しながら、意見交換をしたり、正答に導いたりする授業を展開。



③生活単元学習

併設高等学校生徒との交流の様子を他の友達の様子を互いに見合って感想を言い合ったり、今後の交流に向けての意見交換などを行った。



④職業教育

様々な職業について、身近な存在である先輩の実習の様子を見せながら、いろいろな種類があること、どんなことに注意しているかを解説。



⑤美術

課題の実例を映し、やり方や注意点を説明。